

中国の初等教育における「社会」と「品德と社会」の比較研究

—モンゴル語版教科書の分析を中心に—

紅蘭

キーワード：「社会」、「品德と社会」、社会系教育、地理教育、中国

1. はじめに

中国では、1986年に「義務教育法」が定められた。2001年から始まった基礎教育課程改革により「社会」は「品德と社会」へと変わり、2002年6月に中国教育部から「全日制義務教育品德と社会課程標準（実験稿）」が告示された。内モンゴルでは「全日制義務教育品德と社会課程標準（実験稿）」がモンゴル語に翻訳されて、2005年9月から実施されるようになった。

本稿では、中国の初等教育において社会系教育がどのように行われているのかを教科書分析を中心に考察する。分析にあたっては、1995年に出版された中国・内モンゴル自治区のモンゴル語版の教科書「社会」と、2002年の改定に準拠し2005年出版された教科書「品德と社会」を用いる。

2. 中国の教育制度とその動向

中国においては教育の目的を憲法第46条で規定している。すなわち、教育の目的は、「児童生徒に道徳、智力、体力などの全面的な発達を促進させる」である。教育法第5条では「教育は必ず社会主義現代化のために奉仕する。生産労働と結びつけ、「徳、智、体」などを全面的に発達させ、社会主義事業の建設者と後継者を養成する」と規定している。以上のように中国の教育は社会主義建設のために奉仕することや、道徳教育を重視しそれに加えて智力と体力とを全面的に発達させた理想人格を養成するという目標が教育目標の核心に位置づけられている。中国は「依法治国」と「以德治国」という方策を持って国を統治する。現代社会論理とともに、文化や伝統を重視する道徳教育が中国の教育の基礎となっている。

内モンゴル自治区の教育については自治区が成立したときから民族学校、漢民族学校、少数民族と漢民族が合併した学校の三種類の小中高等学校がある。中華人民共和国教育部が2004年5月17日に公布した「小中学校少数民族用教材編纂審査管理暫時施行方法」のお知らせ（中国小中学校モンゴル語、朝鮮語、チベット語の教材審査委員会；新疆、広西、四川、雲南省、自治区教育厅¹⁾）では、小中学校における少数民族文字教材を強化するため、小中学校少数民族文字の教材の編集と審査の品質を高めさせ、国务院の民族教育に関して改革を進め、発達させるとしている。また「小中学校教材編纂審査管理暫時施行管理方法」と「小中学校少数民族文字教材編纂審査管理暫時施行本方法」を制定し、少数民族文字教材の強化の実施を規定している。このように近年の中国においては少数民族文字教材が重視されてきていることを分かる。資料1に示すように、漢語（北京語）の教科書を

資料1 モンゴル語版と漢語版の「品德と社会」



(モンゴル語版)

(漢語版)

モンゴル語に翻訳した教科書が用意されている。また単にモンゴル語に翻訳するだけでなく、教科書の人名などがモンゴル人のものと用いるなどの工夫がなされている。

3. 「社会」と「品德と社会」の比較

(1) 初等教育における教科

中国の学校における教育内容は「教学大綱」によって規定されていたが、「応試教育から素質教育への転換」という教育改革のスローガンのもとで、2001年から各教科の「課程標準」の作成が進められた。「社会」は「教学大綱」によって規定されて、「品德と社会」は「課程標準」に基づいて規定されたものである。

表1は、1995年時点と2005年時点における初等教育の教科をまとめたものである。表1が示すように1995年時点で初等教育は5年制であったのに対して、2005年時点では6年

表1 初等教育のモンゴル小学校の教育課程

年	学年	教科									
1995	第1学年	モンゴル語	漢語	英語	書写	社会	算数	自然	音楽	美術	体育
	第2学年										
	第3学年										
	第4学年										
	第5学年										
2005	第1学年	モンゴル語	漢語	英語	書写	品德と生活	算数	科学	音楽	美術	体育
	第2学年					品德と社会					
	第3学年										
	第4学年										
	第5学年										
	第6学年										

出所：『教学大綱』と『課程標準(実験稿)』をもとに筆者作成

制となっている。また、教える教科も2005年になって、モンゴル語、漢語、書写、算数、音楽、美術、体育は6年間に延長され、英語も1年生から教えられるようになった。「自然」は「科学」と名称が変更され第3学年からの4年間で教えられるようになった。

さて「社会」は最も大きく変化した教科である。「社会」という教科名はなくなり、それに変わって「品德と社会」という新しい教科が設定され、第3学年からの4年間で教えられるようになった。また第1学年と第2学年に新しく「品德と生活」という教科が設定されている。

(2) 単元構成

ここでは、「社会」と「品德と社会」について、それぞれの教科書の章立て（単元構成）をもとに比較検討する。表2は「社会」と「品德と社会」の単元構成と内容、ページ数、ページ割合を整理したものである。

まず「社会」の内容をみてみよう。第3学年では、児童に家族との生活を教えることから始まって、学校、周りの人々との関係と生活のことを伝え、商業、工業、農業、交通などの産業が私たちの生活にどんな影響と関係があるかについての認識を育成するための内容となっている。第4学年の「社会3, 4」では、中国が世界のどんなところに位置しているか、次に自治区、省、直轄市の行政機構を伝えるとともに、中華人民共和国の文化と古代、近代の歴史の上に社会主義国家の建設された輝かしい成果を説明している。第5学年の「社会5, 6」では、中国の異なる地域での人々の生活の特徴を紹介している。例えば、中国の北部に位置する内モンゴル自治区の草原はわが国の重要な自然草地で、牧畜業の基地である。家畜の牧草を求めて移動するモンゴル人は、移動に便利な組立式のテント（ゲル）に住んで、遊牧生活をしていたが、中華人民共和国が建設されて以来、定住する生活に変化された。その後、中国の国情を紹介して、世界の異なる地域の生活を学ぶ内容となっている。

次に「品德と社会」の内容を検討する。第3学年の学習内容からみると、家族や学校、そしてその周辺の人々との関係や学習を通して成長していくことやルールを守ること、責任を取ることの大切さ、家族と社会の愛情の理解、コミュニケーションするために挨拶が大切であること、児童たちが自分自身で経験することなどが内容として載せられている。第4学年では命を大切にすることという「社会」と異なる健康教育の内容が加えられている。安全に生活することや賢い消費者になることに基づいて他人を愛することも内容に加えられている。その上に児童たちが生活している故郷の特徴、景観、郷土愛などから産業、交通、情報と生活の関係の内容で構成されている。第5学年では、児童たちが相互に誠実で、社会生活に積極的に参加し、祖国の山水を愛して、56の民族が相互に平和的に生活し、団結することの内容であり、また成長の楽しみと悲しみを知り、古代、近代の歴史を学ぶことによって、わが国の輝かしい歴史、文化を理解して、世界の地理を学ぶ内容となっている。第6学年では人類の文明になることは社会が絶えず発展することである。科学の発達は人類の生活に非常に大きな影響を与えた。人々と国家は同じような過去、現代、将来のことがある。中華人民共和国はどんな困難であったのかとか発展してきた歴史を学んで、世界の国々（例えば：日本、インド、エジプトなど）に旅行してみよう。私たちの周りにはいろんな人が相互に協力して生活している。その上でコミュニケーションが大切であって、災害になっても相互に助けて、平和的な世界を作ることが重視されている。

(3) 内容の考察

「社会」の教科書は3学年で662ページあり、30の章で構成されている。一方「品德と社会」は708ページであり、4学年で32の章で構成されている。

社会系教科の中における地理教育では、児童自身が住む身近な地域をふまえて世界を見通す力を養い、様々な地域の諸相とその関連を理解し、そこに自分がどのように関わって

表2 「社会」と「品德と社会」の内容

学年	社会	ページ	ページ数	割合	品德と社会	ページ	ページ数	割合
第3学年	1)				(上)			
	1章. 家族との生活	1~24	24	3.6	1章. 家族, 学校とその周辺	1~24	24	3.4
	2章. 学校の生活	25~43	19	2.9	2章. 学習と成長	25~42	18	2.5
	3章. 私の周りの社会の生活	44~58	15	2.3	3章. 私はルールと友達になる	43~56	13	1.8
	4章. 商業と生活	59~71	13	2.0	4章. 責任	57~71	15	2.1
	5章. 工業と生活	72~88	17	2.6				
	2)				(下)			
	6章. 農業と生活	1~18	18	2.7	1章. 皆の愛	2~21	20	2.8
	7章. 交通と生活	19~38	20	3.0	2章. 皆で楽しみにしよう	22~37	16	2.3
	8章. 情報と生活	39~57	19	2.9	3章. 生活に彼たちがいないといけない	38~51	14	2.0
	9章. 貯蓄と保険	58~70	13	2.0	4章. 道を探すと道を急ぐ	52~71	20	2.8
10章. 祝日の文化	71~82	12	1.8					
11章. 科学と迷信	83~86	4	0.6					
第4学年	3)				(上)			
	1章. 中国, 世界に	1~16	16	2.4	1章. 命を大切に	1~18	18	2.5
	2章. 中国の行政	17~29	13	2.0	2章. 安全な生活	19~42	24	3.4
	3章. 祖国の山, 川など	30~50	21	3.2	3章. 消費の技術	43~62	20	2.8
	4章. 中華民族の祖先と早期文明	51~66	16	2.4	4章. 他人を愛すること	63~89	27	3.8
	5章. 統一された多民族国家	67~94	28	4.2				
	6章. 中国の光り輝く古代文化	95~123	29	4.4				
	4)				(下)			
	7章. 近代の中国 (一)	1~24	24	3.6	1章. 地域の特徴	2~25	24	3.4
	8章. 近代の中国 (二)	25~65	31	4.7	2章. 生産と生活	26~49	24	3.4
9章. 中華人民共和国と国家機構	66~78	13	2.0	3章. 交通と生活	50~71	22	3.1	
10章. 社会主義建設の輝かしい成果	79~106	28	4.2	4章. 情報と生活	72~91	20	2.8	
第5学年	5)				(上)			
	1章. 異なる地域での人々の生活	2~68	67	10.1	1章. 誠実な人になる	1~20	20	2.8
	2章. 中国の交通	69~79	11	1.7	2章. 私たちの民主的な生活	21~46	26	3.7
	3章. 中国の観光スポット	80~110	31	4.7	3章. 祖国の山水を愛している	47~68	22	3.1
	4章. 中国の国情	111~132	22	3.3	4章. みんな中国人	69~98	30	4.2
	6)				(下)			
	1章. 私たちの世界	2~8	7	1.1	1章. 成長の楽しみと悲しみ	2~25	24	3.4
	2章. 人類の文明	9~35	27	4.1	2章. 古今を探求する	26~61	36	5.1
	3章. 変わっている世界	36~58	23	3.5	3章. 特別な中国の文化	62~91	30	4.2
	4章. 世界の異なる地域の人々の生活	59~129	71	10.7	4章. 私たちの生活している地球	92~112	21	3.0
5章. 私たちの共通の家—地球を大切に保護しよう	130~139	10	1.5					
第6学年					(上)			
					1章. 文明に向かえよう	2~29	28	4.0
					2章. 強い中国人	30~57	28	4.0
					3章. 発達している中国	58~83	26	3.7
					4章. 世界での旅行	84~110	27	3.8
					(下)			
					1章. 一緒に行く	2~19	18	2.5
					2章. 人類の家	20~47	28	4.0
				3章. 同じ世界で暮らしている	48~67	20	2.8	
				4章. さようなら, 私の小学校の生活	68~72	5	0.7	
			662	100			708	100

出所: モンゴル語版教科書「社会」(1995)と「品德と社会」(2005)をもとに筆者作成。

生きていくかを考える力を養う側面があることが望ましい。地理の学習で様々な地域を知るために、直接現地へ出かけられない場合がむしろ一般的であり、直接体験によらずに事物・事象を学習することになる。以上の条件を踏まえて、地理教育が必要と考えられている。

「社会」と「品德と社会」の地理の内容に注目してみる。すると、地理学の内容が少なくなっていることを分かる。例えば「社会」では30章のうち18章の地理の内容であり、「品德と社会」では32章のうち9章だけが地理の内容である。

またページ数で見ると「社会」全体では410ページが地理の内容があり、全内容の62.6%を占める。地理と歴史の内容からなった「社会」では地理的内容が半分以上を占めていた。しかし、「品德と社会」では地理の内容は213ページであり全内容の30.8%でしかない。地理、歴史、道徳の内容から構成される「品德と社会」で地理の内容3分の1となり、量的にも少なくなっている。

「品德と社会」は児童たちの社会生活に基づき、児童たちに道徳の素晴らしさを知らせ、社会性の発達を推進する総合的な教科である。児童たちの生活を指導することによって児童たちに豊かな精神修養を身に付けさせ、生活に積極的に相応することと、社会的能力を養成して愛情と責任感を持ち、よい行為の習慣と個性を持つ人と育成することがこの教科の目標となっている。

「品德と社会」では道徳と防災知識の内容が多くなっている。地震、火災などを防ぐための内容とともに児童たちが自分でやってみることやみんなで相談して意見を交換する学習が多いのが特徴である。

4. おわりに

本稿では、初等教育のモンゴル語版の教科書の分析を中心にして中国内モンゴルで行われている社会系教育の「社会」と「品德と社会」の内容を比較した。地理と歴史の内容を中心にする「社会」は、地理、歴史、道徳を内容とする「品德と社会」に変わった。学年的には「社会」は初等教育の第三学年から第五学年まで教えられていたが、「品德と社会」になると初等教育の第三学年から第六学年まで教えられることになった。ただし、一年間増えた「品德と社会」では地理と歴史の内容に道徳の内容が加えられ地理の内容は「社会」の内容より著しく少なくなった。「品德と社会」では児童たちに社会的道徳内容を教えることか重視されているといえる。

注

- 1) 中国では、教育部が日本の文部省に当たる中央教育所轄官庁である。1949年11月に教育部が成立して以来、国家的教育行政の所轄官庁としての機能を果たしてきた。教育部の下には省・自治区に教育庁が、直轄には教育局が設けられ、各地方の教育行政を担当している。

参考文献

- 教科書研究センター(2000):『諸外国における教科書制度及び教科書事情に関する調査研究報告書』, 教科書研究センター.
- 諸外国の教科書に関する調査研究委員会(2003):『中国の教育課程改革と新しい教科書—歴史教科書を中心に—』, 諸外国の教科書に関する調査研究委員会.
- 郭雯霞(2005):『中日両国小学社会課的比較研究—一個社会認識教育論的視角』, 民族教育出版社.
- 人民教育出版社地理社会室(1995):『九年義務教育五年制小学校教科書 社会』, 内モンゴル教育出版社翻訳出版.
- 課程教材研究所・総合文科課程教材研究開発中心(2005):『義務教育課程標準実験教科書 品德と社

会』, 内モンゴル教育出版社翻訳出版.
中華人民共和国教育部 Web ページ (<http://www.moe.edu.cn>)

A Comparative Study on “Social Studies ” and “Virtue and Social
Studies ”in Primary Education, China
—An Analysis of Textbooks in Mongolian Language—

Honglan

Keyword: Social Studies, Virtue and Social Studies, Education in the Social Studies, Geography
Education, China